

# 確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

## 平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

5月16日(水)  
徳淵

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示  
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

遅くなりましたが、第3回の校内研の各学年の検討内容の報道です。

学年	教科	単元	授業で獲得させたい知識・技能 見方や考え方	獲得させるための手立て・工夫
1年	国語	どうやって身を守るのかな	・同じところと違うところに気づく力。	・挿絵や本文に注目すると分かることを理解させる
	算数	たし算 ひき算	・具体的な場面をたし算の式に表す。 ・式から具体的な場面を考え、お話をつくる。	・子どもたちの生活場面につなぐ発問をする。
2年	国語	まよい犬をさがそう (話す・聞く)	・大事なこと(情報)を聞く力 ・判断する力 (集中して見る・聞く力)	
	算数	かくれた数はいくつ	・テープ図をかく。(比較する力) ・言葉に着目し、関係を読み取る。 ・テープ図を式に表す。 (式と図をつなぐ)	・展開の後半で、情報過多の問題を出す。 ・学習が終わったら、オリジナルの問題をさせる。
3年	国語	ゆうすげ村の小さな旅館	・物語のしかけを探そう。 ・出来事を確かめながら読む。 (したこと、言ったこと、思ったことを読み取る力)	・サイドライン(+書き込み) ・班で話したことから、キーワードを見つける。 ◎めあての答えになるキーワードに線を引く。
	算数	たし算とひき算の筆算 一億までの数	・日常生活(お金など)の経験につなげる思考。	・教師が間違い、子どもがそれに気づくような展開。
4年	国語	ヤドカリとイソギンチャク	・「問い」と「答え」の文章構成をつかむ。 ・作者の書き方の工夫。(読み手に対する相手意識)	・意味段落のつながりを考えさせるよう、文章の並び替えをさせる活動を設定。

		走れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>人物の気持ちの変化（どこで、どのように、どうして）叙述から根拠や理由を探す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どこが大きく変わったか」というめあてや課題の設定。</li> </ul>
	算数	わり算 折れ線グラフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆算のしかたにつながる100のまとまりや10のまとまりを理解する</li> <li>折れ線グラフの性質やグラフをかく相手意識について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お金の絵など、視覚的支援。</li> </ul>
5年	算数	式と計算 同じものに目をつけて	<ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことが出た時に、子どもたちがどう関わりあうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分からないことが出た時に、子どもたちがどう関わりあうか。子どもどうしの思考を教師がまとめる。</li> <li>子どもが全体で説明し合う活動を計画的に行っていく。</li> <li>ふり返りでは、何が分かったか、どのようにして分かったか、誰の発表で納得できたか等を伝え合っていく。</li> </ul>
6年	国語	風切るつばさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面分けが自分でできる。</li> <li>文章全体の構造をとらえられる。</li> <li>主題をとらえる力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時、場所、人物を表す言葉から考えていく。</li> <li>物語の基本4場面（設定・展開・山場・結末）</li> <li>登場人物の心情の変化&amp;関係&amp;役割を考える。</li> <li>情景描写をとらえさせる。</li> <li>低中学年の教材で主題を捉えさせる。</li> </ul>

第3回の校内研では、「学びに向かう力」を次の3つに整理しました。

- 課題に対して、既有的知識・技能や学習経験を生かそうとする姿【主体的な学び】
- 課題に対して、他者と関わりながら自らの考えや表現の仕方を変容・補強していこうとする姿【対話的な学び】
- 自ら「問い」を見いだそうとする姿（主体的で深い学び）

今日の国語の授業でどの姿を引き出すか。今日の算数の授業でどの姿を引き出すか。1時間1時間の積み重ね、一日一日の積み重ねが必要になります。目の前の子どもたちに付けたい力を私たち授業者が明確にもちながら、日々の授業に取り組んでいきましょう！